

2024/25 シーズンにおけるインフルエンザワクチン等の接種に関する考え方

2024年9月30日

予防接種推進専門協議会

・2024/25 シーズンにおいてもインフルエンザワクチンの積極的な接種を強く推奨します

新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）のパンデミックが始まった2019/20 シーズン以降は、2020/21、2021/22 シーズンにおいて、国内での大規模なインフルエンザの流行は認められておりませんでした。2023年5月にCOVID-19が感染症法上の5類感染症になって以降、社会では人流が増加して、様々な感染症の流行がみられ、そうした中インフルエンザも昨年（2023年）9月頃より急激に増加するなど、流行状況の予測がつきにくい状態が続いております。現時点ではインフルエンザの国内での流行は見られておりませんが、2023/24 シーズンは早期から流行が起こったこと、新型コロナウイルス感染症との同時流行も懸念されることから、速やかな接種が求められております。一方で2024/25 シーズンのインフルエンザワクチンの供給は十分であり、ワクチンの出荷も早い状況にあるので、これから接種する方がいらっしゃっても不足する心配はありません。

インフルエンザワクチンは、インフルエンザの発症を予防する効果があり、学校での欠席日数を減らす効果や¹⁾、インフルエンザによる入院を減らす効果²⁾も報告されています。予防接種推進専門協議会は2024/25 シーズンにおいても、インフルエンザワクチンの接種を受けることを強く推奨いたします。

・新型コロナウイルス感染症の流行も続いています

入院を含む重症化を予防する手段としてのワクチン接種は有効であると考えられ
オミクロン変異株対応新型コロナワクチンの接種、特に定期接種を強く推奨します

新型コロナウイルス感染症は、前述のとおり2023年5月に感染症法上の新型インフルエンザ等感染症（2類相当）から5類感染症となり、感染対策上の法的なしびりが緩和されました。それに伴い社会活動の様々な制限がなくなりましたが、現在も流行は続いており、入院患者の80%以上が、60歳以上の高齢者です³⁾。一方この間のオミクロン変異株対応新型コロナワクチンの接種率は必ずしも高くない状況です⁴⁾。

新型コロナワクチンは2024年4月1日から定期接種に位置付けられ、65歳以上の方及び60～64歳で心臓、腎臓または呼吸器の機能に障害があり、身の回りの生活が極度に制限される方等を対象に、2024年10月から秋冬接種として1回接種することになりました。定期接種対象者以外の方については、任意接種として個々の判断で接種していただくこととなります。また使用されるワクチン株については、厚生労働省の審議会により、2024年秋以降の新型コロナワクチンはオミクロンJN.1対応1価ワクチンの使用を基本とする方針が決定されました⁵⁾。新型コロナワクチンの接種により重症化や罹患後症状の発症を抑えることができますし、オミクロンJN.1対応1価ワクチンは、現在流行中のオミクロンKP.3株に対しても有効であるとされています⁶⁾。

予防接種推進専門協議会は、2024年10月から開始されるオミクロン変異株対応新型コロナワクチンの接種、特に定期接種を強く推奨いたします。

・高齢者の方に、肺炎球菌ワクチンの接種を強く推奨します

肺炎球菌ワクチンには23価莢膜多糖体ワクチン（PPSV23）と13価結合型ワクチン（PCV13）、15価結合型ワクチン（PCV15）、20価結合型ワクチン（PCV20）がありますが、PCV13は2024年10月から発売中止となります。65歳の高齢者および60歳から65歳未満の日常生活が極度に制限される程度の基礎疾患を有する方を対象として実施されている定期接種にはPPSV23が使用されています。ただ高齢者を対象とした肺炎球菌ワクチン定期接種の実施率は低水準で経過しており、より一層の接種率向上が求められています⁶⁾。

肺炎球菌は肺炎の主要な原因菌であり、菌血症や細菌性髄膜炎などの重症感染症を起こしやすい細菌です。高齢者の方は肺炎球菌感染症が重症化するリスクが高いため、定期接種の対象年齢にかかわらず、未接種の方には肺炎球菌ワクチンを接種することが医学的観点から推奨されます。定期接種対象外の65歳以上の高齢者（過去に定期接種でPPSV23を接種してから5年以上経過し、再接種に該当する高齢者を含む）および65歳未満の肺炎球菌感染症に罹患するリスクの高い方には、PCV20の接種、もしくはPCV15を接種してから1～4年の間隔をおいてPPSV23を接種することが推奨されます^{7,8)}。

【文献】

- 1) Jefferson T, Rivetti A, Di Pietrantonj C, Demicheli V. Vaccines for preventing influenza in healthy children. The Cochrane database of systematic reviews 2018;2:Cd004879.
- 2) Talbot HK, Zhu Y, Chen Q, Williams JV, Thompson MG, Griffin MR. Effectiveness of influenza vaccine for preventing laboratory-confirmed influenza hospitalizations in adults, 2011-2012 influenza season. Clinical infectious diseases : an official publication of the Infectious Diseases Society of America 2013;56:1774-7.
- 3) 国立感染症研究所：新型コロナウイルス感染症サーベイランス月報：発生動向の状況把握. <https://www.niid.go.jp/niid/ja/2019-ncov/2484-idsc/12015-covid19-surveillance-report.html>
- 4) 第 56 回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会予防接種基本方針部会・第 79 回厚生科学審議会感染症部会 資料（2023 年 9 月 15 日）：新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染状況及び取組状況等について.
<https://www.mhlw.go.jp/content/10906000/001146454.pdf>
- 5) 第 2 回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会 研究開発及び生産・流通部会 季節性インフルエンザワクチン及び新型コロナワクチンの製造株について検討する小委員会 資料 1「2024/25 シーズン向け新型コロナワクチンの抗原組成について」2024（令和 6）年 5 月 29 日. 厚生労働省.
https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/newpage_00104.html
- 6) 国立感染症研究所：新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)の変異株 KP.3 系統について.
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/2019-ncov/2551-cepr/12865-sars-cov-2-kp3.html>
- 7) 第 22 回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会予防接種基本方針部会ワクチン評価に関する小委員会 資料（令和 5 年 12 月 1 日）：高齢者に対する肺炎球菌ワクチンについて.
<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/001173696.pdf>
- 8) 日本呼吸器学会呼吸器ワクチン検討委員会/日本感染症学会ワクチン委員会・合同委員会：「65 歳以上の成人に対する肺炎球菌ワクチン接種に関する考え方（第 6 版）」（2024 年 9 月 6 日）
https://www.kansensho.or.jp/uploads/files/guidelines/o65haienV/o65haienV_240909.pdf